

令和2年度 栃木県サービス管理責任者研修資格取得研修

相談支援の必要な技術

令和2年7月21日（火）

講義の目的

本人を中心とした支援を実施するにあたり、
獲得すべき援助技術を理解する。

社会福祉法人せせらぎ会
県南圏域 障害者就業・生活支援センター「めーぷる」
主任就業支援担当 梁島 和由

相談支援で必要な技術 ケアマネジメントとは

- ①ケアマネジメントの枠組み
- ②ケアマネジメントで大切にしたい
「7つのキーワード」

ケアマネジメントの枠組み



ケアマネジメントの枠組み①

「定義」

多様なニーズを持った人々が、自分の機能を最大限発揮して健康に過ごすことを目的としてフォーマル及びインフォーマルな支援と活動のネットワークを組織し、調整し、維持することを計画する人（チーム）の活動と定義される。



デイビットP. マクスリー

ケアマネジメントの枠組み①

「障害者ケアマネジメントとは」

「障害者の地域における生活支援するために、ケアマネジメントを希望する者の意向を踏まえて、福祉・保健・医療・教育・就労などの幅広いニーズと、様々な地域の社会資源の間に立って、複数のサービスを適切に結びつけて調整を図るとともに、総合的かつ継続的なサービスの供給を確保し、さらには社会資源の改善及び開発を推進する援助方法である。」。



厚生労働省
障害者ケアガイドライン

ケアマネジメントの枠組み②

「2つの目的」

①	生活困難者に対して、様々な支援を組み合わせ提供すること。	セルフケア能力の向上
②	一つの事例を通して色々な領域の様々な職種や家族や近隣をつなげる こと。	地域のコミュニティづくり



ケアマネジメントの枠組み③

「必要性」

施設内生活

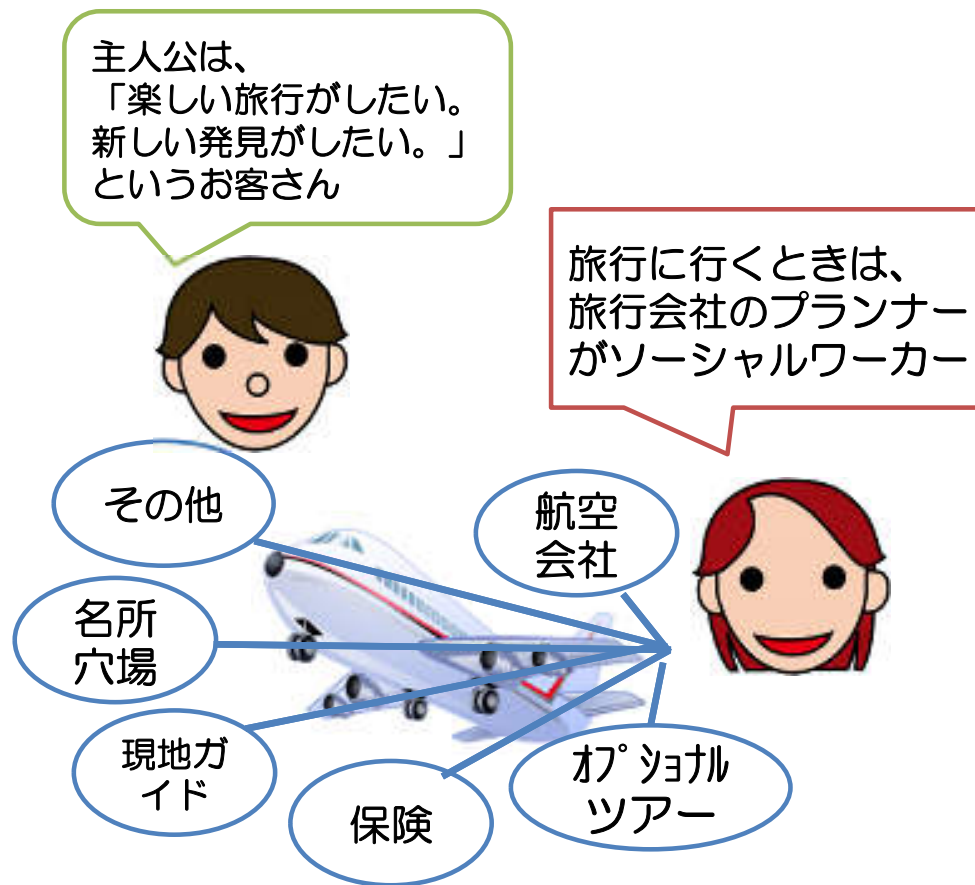
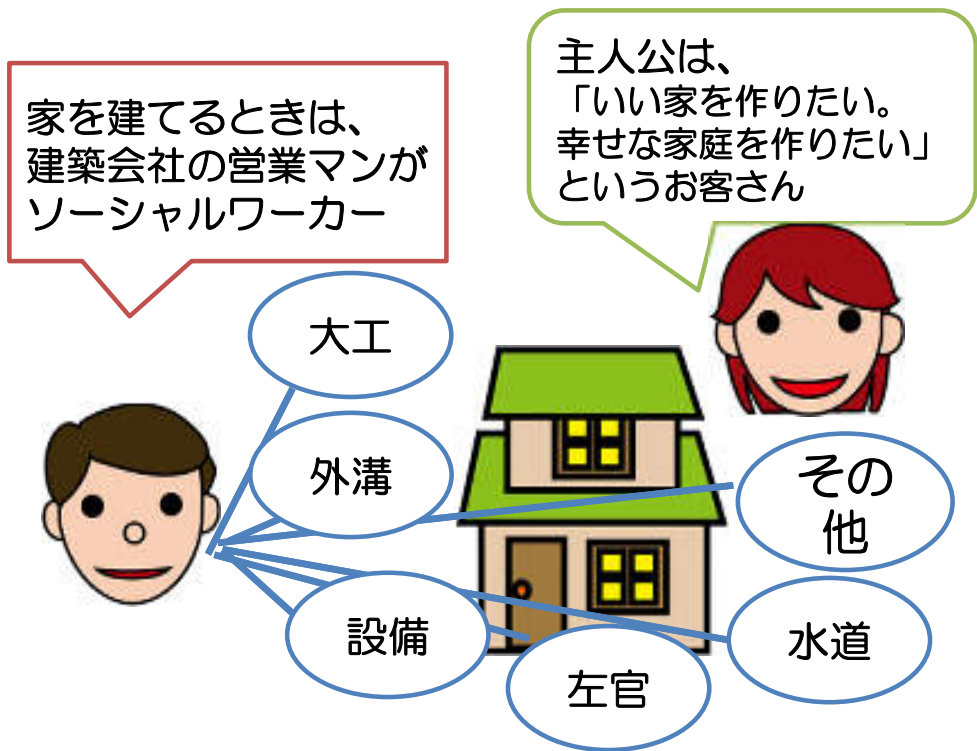


- 今まではケアマネジメントは必要なかった
- 地域に障害者が暮らしていない
 - 施設中心だった
 - 専門分化（学校、病院、家庭等）して完結的

地域生活

- 
- A diagram illustrating community life. It features a central illustration of a woman's face with red hair, surrounded by several blue bubbles. The diagram is enclosed in a large, light-colored oval. The text '1. 脱施設化（による脱集中化）' (1. Deinstitutionalization (leading to de-concentration)) is written above the illustration. To its right, '2. 複数のニーズ' (2. Multiple needs) is written. Below the illustration, '3. 専門分化' (3. Specialization) is written. Below the illustration, '4. サービスの断片化' (4. Fragmentation of services) is written. Below the illustration, '5. 社会的相互関係' (5. Social interrelationships) is written. To the right of the illustration, '6. 費用対効果' (6. Cost-effectiveness) is written.
1. 脱施設化（による脱集中化）
 2. 複数のニーズ
 3. 専門分化
 4. サービスの断片化
 5. 社会的相互関係
 6. 費用対効果

【障害者が地域で生活するとき】



イメージとして・・・

ケアマネジメントの枠組み④ 「対象」

	軽い	重い	
急ぐ	X	X	⇒ 「危機介入」
急がない	X	○	⇒ 「ケアマネジメントの対象」

※「重い」=複数ニーズを持つ事例

全てケースがケアマネジメントの対象ではない

ケアマネジメントの枠組み⑤ 「歴史」

①契機は1950年代以降のアメリカ、精神病院や入所施設の福祉関連費の増大

- 入院生活での治療が、治療の絶対条件では無くなった。→脱施設（入院）化の促進
- 州立の精神病院を2分の1を閉鎖していった（コストカット）

②精神障害者のコミュニティケアを推進していくことに。

- 1964年精神薄弱者施設および精神保健センター法
（退院した人を援助する24時間対応のセンター）
- しかし、ベトナム戦争により精神保健の予算を削除される。
地域でのアフターフォローを主とした人材的な予算をカット。
- 急激な退院患者を支える地域の受け皿が無い状態に陥る。

抗精神薬
の発見により
地域生活での
療養が選択肢の
一つになった

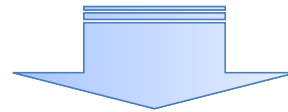
ケアマネジメントの枠組み⑤ 「歴史」

③急激な退院者は、行先を失い「再入院」「無治療者」「ホームレス」が増加

★生活基盤となる「福祉住宅」の整備

★生活ニーズとサービスを繋げるシステムの整備

が課題となった。



④1970年代後半にケースマネジメントの有用性が実証され
各州に法整備され認知されるようになった。

※このアプローチが精神障害者だけでなく他の社会的弱者に波及し利用された。

ケアマネジメントの枠組み⑤

「日本のケアマネジメントの開発経過」

- 1993・4年からケアマネジメントの検討を開始
- 1995年 「障害者にかかわる介護サービス等の提供の方法及び評価に関する検討会」
ケアガイドライン検討会
- 1998年 障害者介護等支援施行事業の開始
ケアマネージャー指導者養成研修開始→全国で開始
- 1999年 テキスト発行
- 2000年 障害者介護等支援事業検討会（三障害）
介護保険制度創設、介護支援専門員（ケアマネージャー）によるケアマネジメント
- 2002年 厚生労働省より「ケアガイドライン」
三障害指導者養成研修開始
全国でも三障害合同研修へ
障害者ケアマネジメント従事者と変更
- 2003年 市町村において「障害者ケアマネジメント事業」上級研修の開始
- 2004年 三障害統合の方向へ
グランドデザインにおいてもケアマネジメントを計画
上級研修検討会議においてケアマネジメント従事者と上級者の役割分担などを検討
- 2006年 障害者自立支援法において制度化
- 2013年 障害者総合支援法施行

相談支援で大切にしたい
「7つのキーワード」



ケアマネジメントのキーワード①

『ストレングスモデル』

- スtrenグスとは、「強み」と訳される。

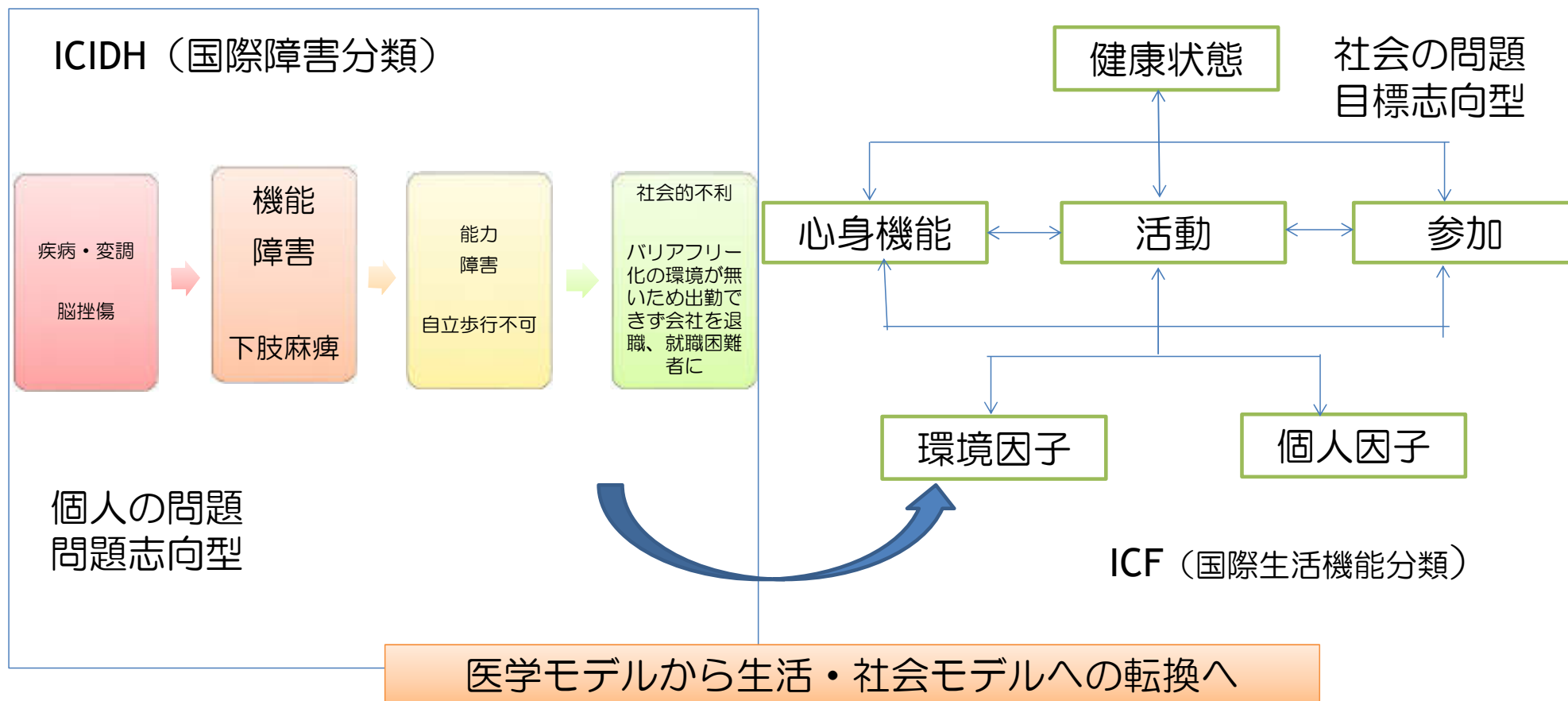


内的資源 (本人)	環境面 (社会資源)
<ul style="list-style-type: none">• 能力 (過去も含め)• 熱望 (強い願望)• 自信	<ul style="list-style-type: none">• 資源• 社会関係• 機会
アセスメントする4つの側面 ①性格・人柄・個人的特性 ②才能・素質 ③環境のストレングス ④興味・関心/向上心	

人は必ず、ウィークネス（弱さ）とストレングス（強さ）の両面があること。
この両面の視点/考え方が重要である。

相談支援のキーワード①

『ストレングスモデル』



QOLの向上

障害

健康状態

健康

心身機能・身体構造

身体の動きや精神の働き、また身体の一部の構造の事。

心身機能・身体構造の障害

活動

生きていくのに役立つさまざまな生活行為の事。
ADL・IADL・仕事・趣味

活動の制限

参加

社会的な出来事に関与したり、役割を果たしたりする事。

参加制約

生活機能

環境因子

個人消費用の物質、移動や交通のための用具、仕事のための用具、文化・レクリエーション・スポーツ用の用具、資産、加えて気候や光、音などの自然環境、さらに家族や友人、サービス提供者などの存在

個人因子

性別、年齢、体力、ライフスタイル、習慣、生育歴、困難への対処方法、社会的背景、教育歴、職業歴、過去や現在

背景因子

3つのモデルについて

	医学モデル	社会モデル	生活モデル
障害とは	身体疾患や身体の変調によって起こる。	社会・環境によって起こる。	身体的 精神的 社会環境的な側面の関係性で障がいを捉える。
社会適応の手段	治療・リハビリテーションによる。	社会・環境の側の改善による。	<ul style="list-style-type: none">・専門家視点優先からの脱却・利用者と協同で支援。
アセスメント ケアプラン	問題志向型。	目標志向型。 合理的配慮。	主体性尊重型。（対等性を強調） 伴走支援型。（側面を支持） 個別支援計画：本人を中心にした。

生物心理社会モデル

健康観を生物的（医学的）側面・心理的側面・社会的側面から総合的に捉えようとする視点です。ICF の考え方に近いモデル。

『エンパワメント』

ケアマネジメントはエンパワメントの考え方が背景にある

本来の力を失っている状態

自己について否定的な想いを抱いてそれを変えることが出来ない状態

パワーレス



支援の技術

- パートナーの関係を作る
- 課題の焦点を支持し続ける
- 問題解決の学習や自己決定の機会を提供する

ともにその障壁を解決する作業

コミュニケーションで想いを引き出す。

自分の状態がわかり問題解決の糸口に気づく

支援の視点

- 自分の状態の気付き
- 資源の知識の獲得
- 社会との関係の見直し
- 問題解決の技術の習得

パワー100%



自分の物語を語る
自分の歌を歌う

セルフケア能力が高まり、QOLが高まる

相談支援のキーワード②

『対等な関係性』

- ケアマネジメントを行う人と受ける人との間の対等な信頼関係が必要である。

→利用者は、決して劣った立場でなく社会に対して積極的に参加する権利を有する。

→利用者とケアマネジメント従事者は対等の立場から当事者の支援やサービスについて話し合える必要がある。

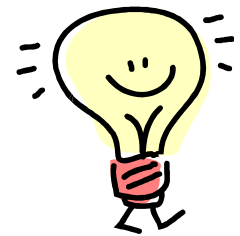


相談支援のキーワード③

『ネットワーク活用の発想』

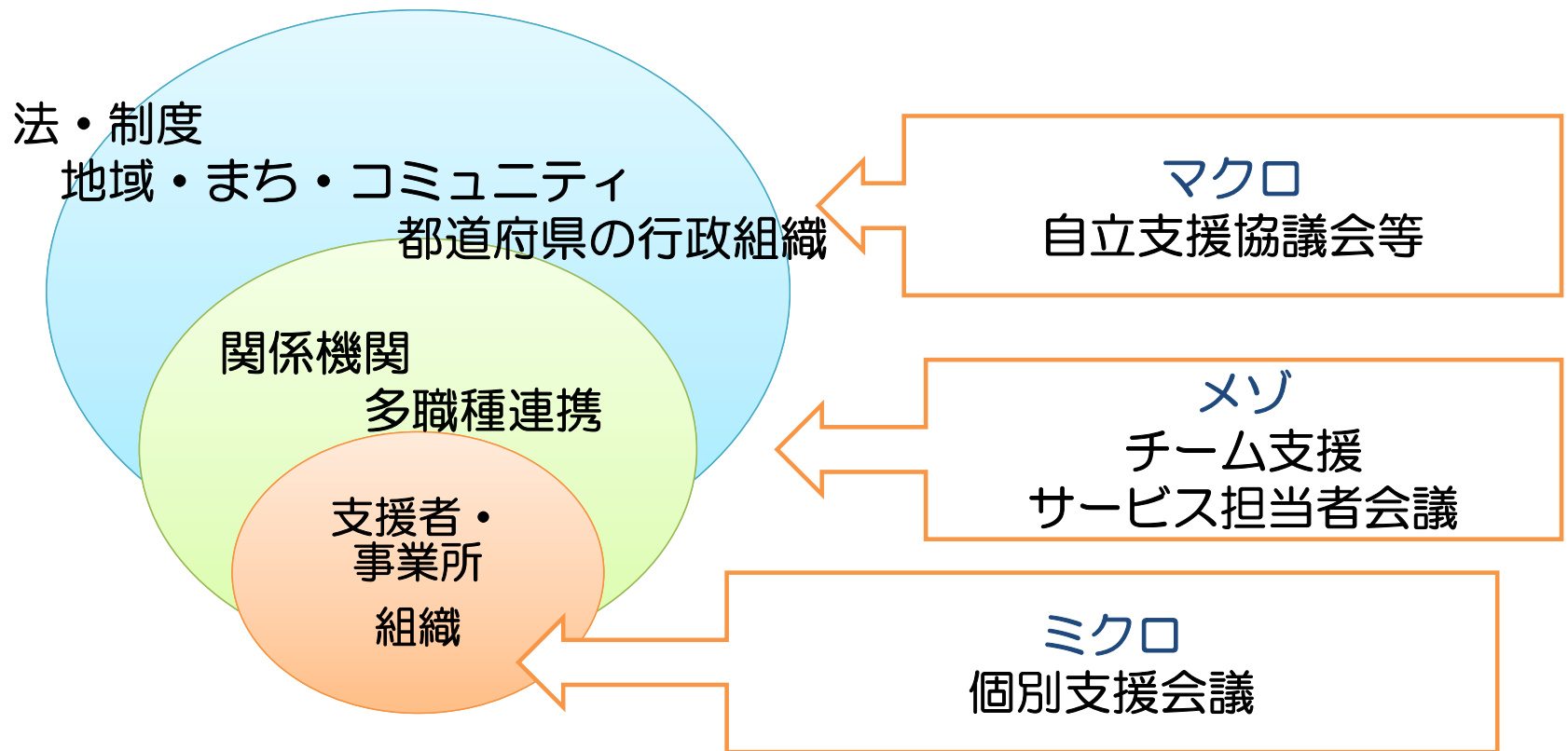
ケアマネジメントを広い視野で検討していく。

- 個人・法人の枠を超え、資源はその地域社会の中で活用する。
- ケアマネジメント従事者自身が所属に縛られることなく資源を活用する。



ネットワークのイメージ

(組織的ネットワークの重層構造)



相談支援のキーワード④

『当事者性・自己（意思）決定の支援』

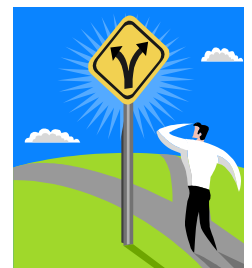
- 支援は、利用者個人のニーズは利用者自身がかもっともよく知っているという考えに基づき行われる。

- ▶ 自己決定を促すために、本人の能力にあった判断材料や説明に工夫する必要がある。

→意思形成支援

- ▶ 意思決定をしたくなるような豊かな暮らし・安心して生活できる環境をコーディネート。

→意思表出支援



相談支援のキーワード④

『当事者性・自己（意思）決定の支援』

▶意思形成支援：例

- 写真、動画、絵、マーク、模型を駆使して情報提供する
- 地域に出て、実際に見たり・体験すること。機会を作る事

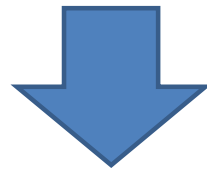
▶意思表出支援：例

- 本人の発した言葉の真意を会議等で検討する。
- 表情や目の輝き雰囲気から本人の喜怒哀楽を察すること
- 言葉を発することができない方の健康状態や精神状態を常に意識しながら支援をあたること

相談支援のキーワード④

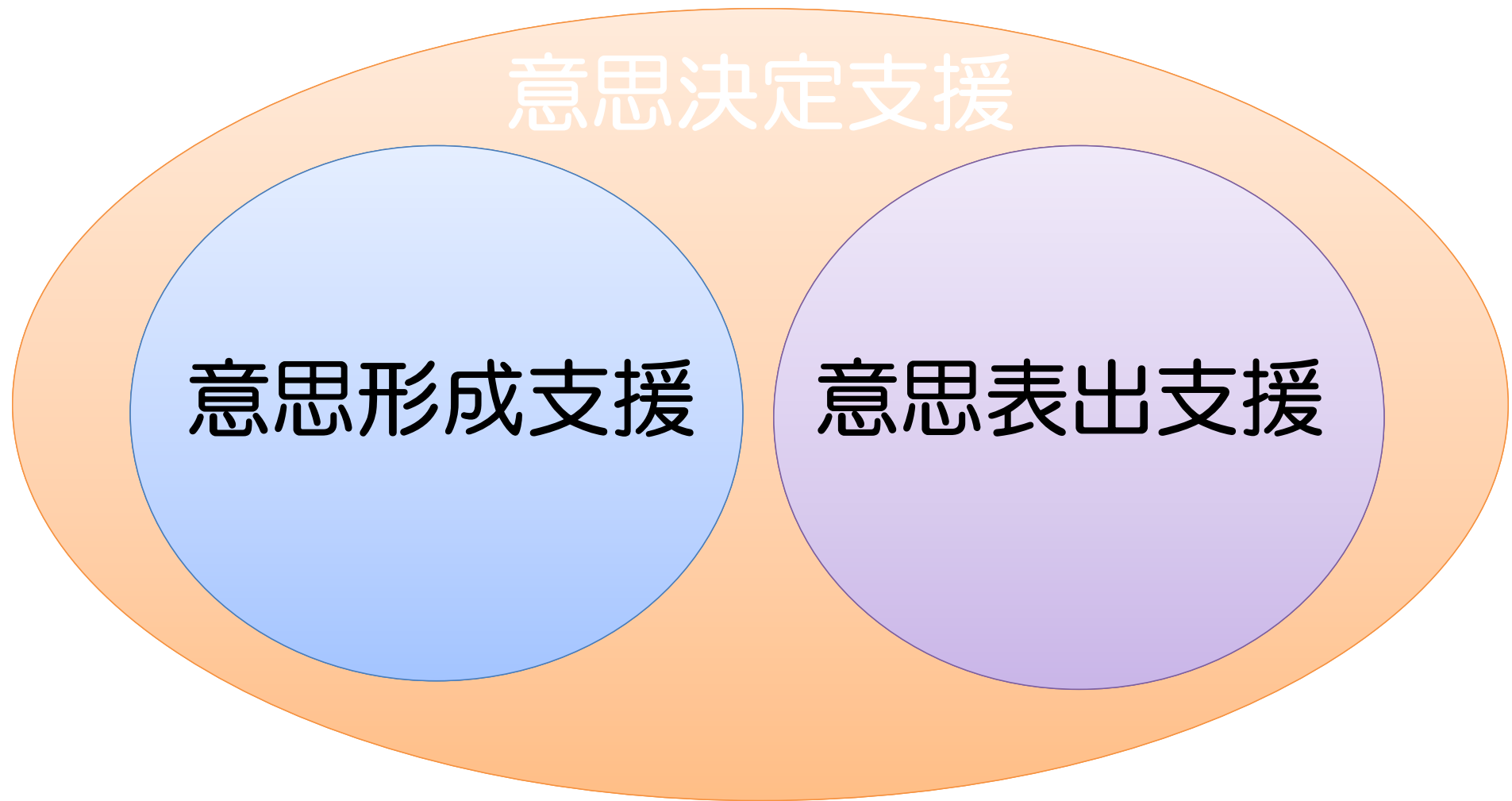
『当事者性・自己（意思）決定の支援』

二者間における、本人のニーズと支援者の支援可能性とをコミュニケーションを通じて交換し、両者で意思決定に向けた合意を形成していく実践課程。



本人自身で決められるように、できることは見守りできないことだけを手伝うこと

意思決定支援の定義 イメージ1



意思決定支援の定義 イメージ2

意思形成支援



意思表出支援



意思決定支援

相談支援のキーワード⑤

『アドボカシー』

- 当事者の人権に配慮し、その権利を擁護する視点を尊重する。

→本来の意味は、

「葛藤を最低減に抑えて問題解決を図ること」

→利用者のニーズを満たすはずの社会資源が機能を発揮しない場合に、その利用者のために機能するように働きかけること。



相談支援のキーワード

『⑥共生社会』 『⑦社会的な交流への配慮』

⑥利用者が可能な限り地域社会の中で家族や市民とともに生活出来るような共生社会を目指す。また、上記を満たすためにサービスの選択肢を増やすような地域づくりや啓蒙活動の視点も重要。

⑦利用者と必要なサービスを結びつけるだけでなく、本人や家族が孤独しないように社会的な交流にむけて開かれるように配慮する。

